

議会報告会報告書

開催日時	平成 30 年 4 月 21 日（土）午後 7 時 00 分～9 時 00 分		
開催場所	ハートフルみくもスポーツ文化センター		
出席議員	中島清晴、殿村峰代、市野幸男、栗谷建一郎、沖 和哉、松岡恒雄、山本 節		
	司会進行者	殿村峰代	
	報告者	松岡恒雄	
	記録者	殿村峰代	
参加人数	24 名		
主な質疑応答 意見・要望等	別紙のとおり。		

松阪市議会議長 山 本 芳 敬 様

平成 30 年 4 月 26 日

議会報告会実施要綱第 8 条の規定により提出します。

議会報告会第 2 班

代表者 中島 清晴

【第一部の主な質疑応答・意見等】

問 市民病院は統合するのか。

答 これからという状況であり、行政の方もあらたな検討委員会を立ち上げていくということであり、議会も地域医療構想と市民病院のあり方調査特別委員会というものをつくり検討していく段階である。

問 運動公園に何か作る予定があるか。

答 山下公園という総合運動公園にスケートボードパークをつくる。予算的には3億円位かけて全国的な大会ができる競技場をつくるという形で進んでいる。

問 市は過去に高速船で損したと書いてあり、運動公園に全天候型の競技場をつくるってできなかった。なんでもつくればいいという発想でスケートボードパークをつくろうとなったのではないか。

答 スケボは若い人中心に愛好者が多く、普通の公園などでやっている。そういう市民の施設として安全に活動できるようにという要求もあり、その協会から請願があり議会が承認した。東海地方にプロに近い人を集めて競技できるものを松阪市が先進的につくろうというのが市長の考えである。議会のなかでもいろんな議論をして決めた。

問 しかし、過去の例で高速船の失敗があり、農業公園もああいう形になった。

答 確かに高速船は失敗だったかもしれない。カリヨンでも松阪市が購入せざるを得ないことになったが、あの発想の時点では国も県も金を出して中心市街地の活性化や松阪市全体の中で進めてきた事業でもある。ベルファームは農業公園という形で出発したが、市の直営より民間の力を借りて委託するほうが、内容的に充実し経費的にもかからないというふうに考える。

問 もうちょっとこの不況の時にこんなのができていいのか悪いのかももう少し検討してほしい。

答 ベルファームの維持管理費は年間4733万円、施設の新たな整備費には1473万円である。様々な指摘をいただいたので、この内容を行政に提出していく。

問 これまでのためこみが100億円あるということで、これはどういうお金か。それと借金が521億円あるがどのような方法で削減するのか。

答 市長の公約は未来に借金を背負わせないということで、今回短期償還という方式を利用し、短期間で返していこうということで、合併特例債を利用する。合併特例債はその後70%返ってくるので、喫緊のトイレ・鎌中、空調に総計31億円程度かかるが、これを短期償還しようとしている。

問 空き家対策事業で海岸近くの建物が崩壊状態で、強風が吹くとその木材などが畑に飛んでくる。なんともならない。どうするのか。

答 国の特措法ができて、これまでのいろんな市の部署がかかわっていたが、今年から建水に所管が変わった。市は対策プロジェクトをつくって取り組む。自治会長さんにお世話になって、どこにどういう危険があるのか把握できた。市民の安全を脅かす空き家になってはいけけないので、動かしていいのか壊していいのか持ち主は個人なので、この一年間検討しながら実行できる方策をさぐっていききたい。

問 嬉野に「おおきんバス」が走っている。バスの運転手で優しい人もいるが、怖い人もいる。怖い人に「荷物は自分の膝の上にのせろ」「早く降りよ」などと言われて「あんなバスに乗りたくない」という人が一人や二人ではない。三重交通にお話をしていただけないか。

答 きちんと伝えて対応する。伝えてすぐなおるかどうかは分からないが、そういう声があるということは伝える。

いま文教経済委員会でデマンド交通のバスなども研究している。

問 嬉野振興局に昔はご意見箱があったが、最近見当たらない。先ほどのような意見はすぐ届く体制をつくってほしい。

中川駅東側の時計が壊れて半年くらいになる。みっともないので直して欲しい。

意見 よく故障する。直すのに金がかかるといわれる。もう少しお金のかからない時計に変えていただくか考えてほしい。

答 あそこを整備した区画整理組合が作ったもので、東側の時計は担当課が直すといっている。予算が付けば直す。

ご意見箱は合併でなくなった。全市的に「市長への手紙」という制度があり、直接市長に届けることができる。市民の声がきちんと届くように制度化を今後総務としてやらせていただく。

問 鵜小学校の学童保育をお母さんたちでやっているが、市から3月10日過ぎに書類が届いて、市の補助金も分からないのに、実務報告・予算計画を書類に書き込んで出せといわれた。素人がやっているので不安だ、補助金が減ってきたら何の補償もない。小さい12名の学童なので支援いただきたい。

答 子供人数が20名以上、稼働日数が250日以上ないとむづかしい。補助金だすのに審査が必要になる。学童は小学校単位でつくるので、今後文教委員会で議論し、議会でも対応していきたい。

第2部用【地域防災について】

【主な質疑応答・意見等】

問 子育てしているが、仕事に出ているとき災害があれば学校に避難所があるのか、子供がどこに逃げればいいのか、何を準備するのか、医師の派遣や薬は準備されているのかなど見えないので教えてほしい。

答 医師については医師会と救援体制の連携を締結している。ただ末端までというのはしばらく時間がおかないと届かないし、全国的な支援は一週間くらい、早いところで四日くらいという状態。医薬品は松阪市の考えはあくまでご自身が既病に沿って医薬品をおもちいただく。

問 栄養士をしている。松阪市の給食会社「トモ」がキッチンカーをもっていて活躍していることを知った。そういったことに予算がつけば、食の安心安全につながるのではないか。

答 「トモ」が独自に災害出動できるスナック型の炊飯などできる車をもっていて、被災地域に急行できる体制をもっている。これはあくまでも民間のもので、こういうものを市で運営するのはなかなかで、民間に協力していただければ安心できるが、議会としてやってくれというわけにはいかない。

問 東日本大震災がおこって、不安な状況が大きい。避難タワーが今3か所計画されている。市長はやる気があるのか聞きたい。議会でも応援して頂きたい。

答 前市長の時海岸に津波がくるまでに約60分といわれている。それから大きな津波がきて、中に入ってしまうと堤防で守られているので水が出にくいという構造的な問題がある。3月の地域防災計画で五主・高須・松名瀬を防災区域、漁師まちを道が狭くブロックが倒れてくる地域と設定した。今後、海岸部に津波避難センターも出てくると思う。これができてもそこへ行けばいいというのではなく、県や国がしめすように、備える、逃げるが基本なので、地区防災計画に反映して頂きたい。これから地域防災計画を作っていくときにもっときめこまかいものにし、何度も何度も議論がされて最善の計画を見い出して頂きたい。